

## 第5学年1組体育科学習指導案

令和5年12月5日（火） 5校時  
第5学年1組（32名）  
場所 吾田小体育館  
指導者 図師 啓悟

### 1 単元名 自然の猛威（表現：激しい感じの題材）

### 2 単元の目標

- 表現運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を理解するとともに、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりすることができるようにする。（知識及び技能）
- 自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- 運動に積極的に取り組み、互いのよさを認め合い、助け合って踊ったり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

### 3 運動の一般的特性

高学年の運動領域「表現運動」は、「表現」及び「フォークダンス」で内容が構成され、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさを喜び、味わうことのできる運動である。

低学年の「表現リズム遊び」と中学年の「表現運動」の学習で身に付けてきた即興的に表現する能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力などを土台として、「表現」では、さらに個人やグループの持ち味を生かした簡単なひとまとまりの動きにして、仲間と表したい感じを込めて通して踊る力を培うことで、中学校のダンスの学習につなげていくことが求められる。

また、運動を楽しく行うために、自己やグループの課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、助け合って踊ったり、互いの動きや考えを認め合ったり、場の安全に気を配ったりすることが大切である。

### 4 児童の実態

#### (1) 運動に触れる楽しさの体験状況を

本学級は、明るく素直で、昼休みには外で体を動かす児童が多く見られる。一方で、屋内で過ごしている児童もおり、運動への関心や体力については、個人差が大きい面もある。しかし、体育の授業で初めて行う運動に取り組む際には、提示された動きのコツを意識して体を動かしている様子が多く見られる。また、友達の動きの様子を見て、アドバイスをしたり、動きの手本を示したりするなど、協力する姿勢も見られる。

(2) 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関して、4年生では「空想の世界」を題材として、イメージカードを見て、即興的に表現をする活動や、グループで話し合ってひと流れの動きを発表する活動を行ってきた。その活動を通して、表したい感じがより伝わるように、動きを誇張させたり、変化させたりする大切さについては理解してきている。しかし、即興的に動くことに苦手意識のある児童もいる。

「思考力、判断力、表現力等」については、友達のよい動きを自己の動きに取り入れることを積極的に行うことができている。一方で、特徴を捉えた動きや変化を捉えた動きなどよかったところを友達に伝えることについては、十分に行うことができている。伝える場を設けるだけでなく、何をどのように伝えるかの視点を明確にもって指導にあたる必要があると考える。

「学びに向かう力、人間性等」については、場作りや片付けを積極的に行い、誰とでも仲良く運動をする児童が多い。体育に進んで取り組む児童が多いが、体でイメージしたことを表現するという点には消極的な児童もいる。そこで、毎時間の導入で十分に体をほぐし、表現の授業の約束を提示するなどして安心して表現の世界に没入することができるようにしたい。

(3) 体力の状況

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	8名	2名	3名	0名	1名	10名	0名	3名	1名	1名
%	56%	14%	21%	0%	7%	66%	0%	20%	7%	7%

※ 3名未測定種目があるため、29名分で算出

体力テストにおいて、総合評価の割合は、男女総合でA段階が62%、B段階が7%、C段階が20%、D・E段階が11%という結果であった。D・E段階の児童は3名おり、授業中は意欲的に取り組むが、日常的に運動に取り組んでいないこともあって低い傾向にあると見られる。

5 学習を進めるにあたって

本単元の指導にあたっては、動きの変化や起伏を生み出しやすい「激しい感じの題材」を扱う。

「自然の猛威」というテーマのもと、イメージしたことを自己の身体で表現するにはどうすればよいかを、児童とともに身体を動かし、児童の動きを取り上げる中で考えさせていきたい。また、毎時間「体ほぐしの運動」を十分に行って心と体をほぐすとともに、表現運動の学習の約束の話をするので、安心して表現の世界に没入できるような雰囲気づくりに努める。さらに、ペアでひと流れの動きなどをタブレットで撮影し、話合いや振り返りで活用することで、自己やグループの動きが表したい感じになっているかを考えることができるようにする。また、工夫を選ぶ際には、思考ツールのフィッシュボーンを使い、工夫を「動き」「空間」「関係」「リズム」と分類した図の中から選べるようにすることで、様々な視点から課題を解決しやすくする。

単元のはじめのオリエンテーションでは、昨年度行った表現の動画や文科省の表現の動画を視聴することで、単元が終わる時のゴールイメージをもたせる。また、基本的な学習の流れを提示することで見通しをもって取り組めるようにし、学習の約束として「恥ずかしくない」「冷やかさない」「ふざけない」「変化し続ける」「ほめて、認める」といった「表現運動のはひふへほ」を確認することで、安心して学習に取り組むことができるようにする。最後に、単元で扱う題材（「大荒れの海」、

「火山の噴火」、「竜巻の発生」を示し、何を想像したかを話し合うことで、扱う題材のイメージを広げる。その際、ロイロノートのイメージマップを共有ノートで使い、友達にイメージしたことに触れやすくすることでイメージをさらに広げて、次時以降の活動につなげるようにする。

単元前半（ねらい1）では、「自然の猛威の表したい感じを、ひと流れの動きで表現しよう」というねらいのもと、「大荒れの海」の題材を使って学習を進める。指導する際は、表現の工夫として「4つのくずし」を示す。第2時では「動きのくずし、〈荒れた海〉」、第3時では「空間、関係のくずし（海にゆられる船）」、第4時では「リズムのくずし（表したいところを誇張する）」というように1時間ずつ工夫を扱う。そうすることで、その工夫に適した場面を全員が体験し、互いに見合うことで、どのように工夫すれば、より「自然の猛威」の感じが表現できるかが分かるようにする。

めあての提示では、前時までの児童の動きからねらいにつながる動きを紹介することで、本時で目指す姿を確認する。教師とともに動きながらポイントを確認したり、ペアの動きを真似したり、動画を撮り合ったりすることで、表したい感じやイメージしたことがより表現できるようにする。

単元後半（ねらい2）では、「はじめ—なか—おわりをつけた簡単なひとまとまりの動きにして表現しよう」というねらいのもとに、表したい題材を選び、題材ごとのグループを作って、ひとまとまりの動きをつくる。まずは、「なか（盛り上がり）」の部分を作り、その前後に「はじめ（きっかけ）」「おわり（その後）」と位置付けてつなげることで変化と起伏のある構成にしやすくする。ひとまとまりの動きをつくる際は、「4つのくずし」の視点から同じ題材のグループで見合うことで、どのように動くと、表したい感じやイメージしたことがさらに伝わるかを話し合うようにする。単元終末には発表会を開き、他のグループの良さを認め合う場を作るようにする。

単元を通して、学習で扱う資料（学習の進め方、動きの例、約束、ワークシートなど）をロイロノートの1枚のシートに盛り込んだポートフォリオ（ワンペーパーポートフォリオ）を使って学習を進めることで、見通しをもって、主体的に学習を進めることができるようにする。

体育の見方・考え方を働かせる学習指導過程を工夫することにより、「即興的に表現する」「簡単なひとまとまりの動きにする」といった課題の解決を、運動を「する」だけでなく、「見る」（友達の動きを参考にする、動画で確認するなど）「支える」（アドバイスする、認めるなど）「知る」（課題を解決する方法や取り組み方などを知る）の様々な関わり方を通して解決できるように指導をしていく。

授業前半では、体ほぐしの運動として、心が弾むBGMが流れる中「人間文字づくり」「新聞紙になろう」などを行う。めあての提示では、前時までの動画で本時のねらいにつながる動きを提示することで、本時の学習問題につなげるようにする。その後、教師とともにイメージを膨らませ、教師の動きや声掛けに合わせて動いてみることで、どのように工夫するとよいかの確認をする。

授業後半では、ペア（単元を通して固定する）で、即興的にひと流れの動きを真似したり、アドバイスをしたりする活動を行う。声掛けの際は、表したい感じと動きをつなげるために「例えばどんな様子？」と聞くことでイメージを具体化させたり、「つまり、慌てている様子を表現しているんだね」と尋ねることで自己の動きは何を表しているのかを考えさせたりしていきたい。その後、グループで集まって、ペアで作ったひと流れの動きを紹介し合い、さらに工夫を重ねることで、お気に入りの動きを一つ決めて、全体での話し合いで紹介し合うようにする。称賛する際は、本時のめあてに即して、どのように動きをつくったのかという点を評価することでまとめにつなげるようにする。振り返りでは、本時で学んだことや考えたことなどをポートフォリオに記入し、発表し合うことで本時の学

びを確認し、次時への見通しをもたせるようにする。

本時は、ねらい1の最後の時間となる。はじめの段階では、わくわく運動や体ほぐしの運動を行うことで、心と体を十分にほぐしていく。めあての確認の際には、動画で本時のめあてにつながる動きを示し、話し合うことにより、リズムをくずすことで、より「自然の猛威」の感じを強調できそうだとすることに気付かせたい。なかの段階では、まず教師とともに、表したい感じをもとに、「はやく or ゆっくり」「急に止まる」「スローモーション」などのリズムのくずしを体験させる。ペアでの活動では、表したい感じに合った工夫を選んで、即興的に動きを見せ合い、動画に残すことで、アドバイスをし合いながら動きをつくることができるようにする。その後、4名ほどのグループを作り、紹介し合い、より自然の猛威の感じ強調できていると感じる動きを決めて真似をし合うことで、友達と共に動く楽しさを感じさせるとともに、様々な動きを体験できるようにしていきたい。

まとめの段階では、グループで考えた動きや工夫を紹介することで、リズムのくずしのよさについてまとめる。振り返りでは、ワンペーパーポートフォリオを活用し、自己を振り返ったり、次時のことを見通したりすることで、今後も主体的に学習に取り組むことができるようにする。

カリキュラムマネジメントの視点から、事前に保健における「心の健康」の学習を振り返ることで、心と体の関係についての理解がさらに深まるようにする。

道徳科においても、「相互理解、寛容」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」などについての学習とつなげ、自己や他者との関わり方の工夫についても考えを広げることで、体育科及び道徳科相互に学習効果が高まることを期待する。

## 6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	次の運動の行い方を知っているとともに、表したい感じを表現したり踊りで表現したりしている。 ・表現では、いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じをひと流れの動きで即興的に踊ったり、簡単なひとまとまりの動きにして踊ったりしている。	自己やグループの課題の解決に向けて、表したい内容や踊りの特徴を捉えた練習や発表・交流の仕方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動に積極的に取り組もうとし、互いのよさを認め合い助け合って踊ろうとしていたり、場の安全に気を配ったりしている。
単元の評価規準	①表現の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②いろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現することができる。 ③グループで、簡単なひとまとまりの動きにして表現することができる。	①どのように動くときよいかを聞いたり、伝えたりして、課題を見付けている。 ②表したい感じに合う工夫を選んでいる。 ③表したい感じやイメージに合った動きになっているかを、友達に伝えている。	①運動に積極的に取り組もうとしている。 ②互いの動きや考えのよさを認め合おうとしている。 ③活動する場所の危険物を取り除くとともに、仲間とぶつからないよう、場の安全に気を配っている。 ・ 仲間と助け合おうとしている。 ・ 場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 (公正・協力、責任・参画については、他の表現の単元で重点的に指導を行う。)

7 指導と評価の計画（6時間）

時間	1	2	3	4（本時）	5	6	
指導内容	知 ① 知識 (ルール)	② 技能 (ひと流れ)				③ 技能 (ひとまとまり)	
	技		① 思考・判断 (課題を見付ける)	② 思考・判断 (工夫を選ぶ)	③ 思考・判断 (友達に伝える)		
	態 ① 愛好的 (進んで取り組む)	③ 健康・安全 (場の安全)				② 共生 (よさを認め合う)	
学習過程	ねらい1 「自然の猛威」の表したい感じを、ひと流れの動きで表現しよう				ねらい2 「はじめーなかーおわり」のある、簡単なひとまとまりの動きにして表現しよう		
	10分	1 整列・挨拶 2 わくわく運動 3 体ほぐし	1 整列・挨拶 2 わくわく運動 3 体ほぐしの運動（「人間文字づくり」「新聞紙になろう」「手の平の魔法」「リーダーにならえ」など）			1 整列・挨拶 2 体ほぐしの運動	
	5分	4 単元の学習内容を確認 ○ ゴールイメージの確認（動画など） ○ 約束 ○ ペアづくり ○ 「大荒れの海」のイメージを広げるなど	4 本時の学習内容を確認 「どのように動く大変な感じがより伝わるだろうか」（動きのくずし）	4 本時の学習内容を確認 「その場で、一人で表現する以上に、大変な感じが伝わる方法はないだろうか」（仲間、空間のくずし）	4 本時の学習内容を確認 「ずっと激しく動いているだけでよいのだろうか」（リズムのくずし）	3 本時の学習内容を確認 「グループを作り、大変だ！！をつくらう」 4 選んだ題材でグループを作る	3 本時の学習内容を確認 「自然の猛威の発表会を楽しもう」 4 発表の準備をする 5 発表会をする
	15分		5 教師の声掛けで動き、工夫の確認をする 6 ペアと動きの工夫を選んで動く 7 全体で、どのような動きができたかを話し合う		5 「なか」の部分の動きを考える	○ 表したい感じを紹介する ○ 発表する ○ 表したい感じが伝わったかの感想を伝え合う	
	10分	5 試しに即興的に踊る	8 グループになり、ペアでできた動きを紹介し合い、気に入ったひと流れの動きを他のグループに紹介する			6 「はじめ」と「おわり」をつなげる	
	5分	6 振り返り	9 振り返り			7 振り返り	6 振り返り
		7 次時への見通し	10 次時への見通し			8 次時への見通し	
評価の重点	知 ① 知識 【カード】	② 技能 【観察・カード・ICT】				③ 技能 【観察・カード・ICT】	
	思		① 思考・判断 【観察・カード】	② 思考・判断 【観察・カード】	③ 表現 【観察・カード】		
	態 ① 愛好的 【カード】	③ 健康・安全 【カード】				② 共生 【カード】	
準備物	BGM（体ほぐし、激しい感じ）、タブレット端末（教師用、児童用1人1台）、プロジェクター、リズム太鼓						
カリ・マネ	保健領域：「心の健康」（第5学年） 道徳科：相互理解、寛容、よりよい学校生活、集団生活の充実（第5学年）						

## 8 本時の学習（4／6時間）

### （1） 本時の目標

表したい感じに合う工夫を選ぶことができるようにする。

（思考力・判断力・表現力等）

### （2） 本時の評価項目

表したい感じに合う工夫を選んでいる。

（思考・判断・表現）

## 9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」と判断される児童への手立て
はじめ (10分)	1 ウォームアップをする。 2 本時のめあてと学習の流れの確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>わくわく運動（市小体連）と、本時のねらいにつながる体ほぐしの運動を行うことで、心と体のウォームアップを図る。</li> </ul>		
	「ずっと」激しく動いているだけでよいだろうか。			
	○ 前時までの児童の動画視聴し、リズムのくずしをすることを確認する。	で、大変な様子が強調されたり、迫力あるものになったりすることを押さえることで、工夫を取り入れたいという必要感をもたせるようにする。		
なか (25分)	3 教師の声掛けに合わせて踊ってみる。 ○ はやくーゆっくり ○ 急に止まる ○ スローモーションなど 4 ペアでリズムのくずしを取り入れた動きを行う。 ○ 波のぶつかりをスローにする ○ 海に飛ばされる瞬間で急に止まる ○ 波にぶつかった船がゆっくり沈む ○ 波が船を襲う瞬間に、時間を止める など	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化を取り入れたい場面に応じて「波がぶつかる瞬間を強調して、じっくり表現したかったらどうする。」などと尋ねながら踊ることを繰り返すことで、工夫の取り入れ方が分かるようにする。</li> <li>ロイロノートのフィッシュボーンを使い、工夫を選ぶことで課題解決につなげる。</li> <li>表したい感じを動きに表す例 ○ 「例えば、ここには何があるのかな」と具体的なイメージを尋ねることで表したい感じがより動きに表れるようにする。 ○ 「この動きはどんな感じ?」「つまり、焦っている様子だね」と抽象的にする言葉をかけ、児童が表したい感じを言語化することで、感じを大切に動きを作るようにさせる。</li> </ul>	○ 表したい感じに合う工夫を選んでいる。 (観察・ワークシート) 【表したい感じに合う工夫を、理由をもって選んでいる】	表したいイメージが曖昧な場合は、「どんな様子かな」「ゆっくりかな。速いかな」といった問い掛けをすることでイメージを膨らませる。 工夫を選べない場合は、表したい感じを聞いたり、身体で表したりすることで「もっとその部分を強調するなら、どうする?」と尋ねることで選べるようになる。
	5 全体で、どのような動きができたかを話し合う。 6 グループで動きを見せ合い、自然の猛威の感じに合った動きを決める。 7 ひと流れの動きをグループと見せ合う。			
まとめ (10分)	8 本時のまとめ			
	リズムのくずしを加えることで、「自然の猛威」の表したい感じがより強調できる。			
	9 振り返り 10 次時の見通し	○ ポートフォリオで学習の振り返りをする。		